

前回の検討会の主な意見
(キトラ古墳の整備について)

a. 墳丘の形状

(1) 主な意見の概要

- ・ 発掘前のような形状に墳丘を復旧すべきという意見が多かった。
- ・ 復旧を前提とした上で、発掘成果を踏まえた表現方法の模索に関する意見があった。

(2) 意見の具体的な内容

◆ 発掘前のような形状に墳丘を復旧すべきという意見

○ 旧状を残せる形で整備を行った方がよい。

○ キトラ古墳については、高松塚古墳以上に墳丘の内容があまり分かっておらず、発掘していない部分もたくさんあるので、それをいかに残していくかということを考える方が大事。高松塚古墳のような整備はあまり好ましくない。

◆ 復旧を前提とした上で、発掘成果を反映した整備を検討すべきという意見

○ キトラ古墳の良好な保存状態や姿を重視する必要があるが、一方で発掘成果を踏まえた表現方法を模索する必要もある。

◆ 景観に配慮した整備をすべきという意見

○ 整備にあたっては、古墳の周辺も含めて景観を重視した整備を行ってほしい。

b. 石室の扱い

(1) 主な意見の概要

- ・ 石室を閉鎖すべきという意見が多かった。
- ・ 石室を閉鎖することを前提とした上で、見学者が現地に足を運ぶような工夫を検討すべきなどの意見があった。

(2) 意見の具体的な内容

◆石室を閉鎖すべきという意見

- 石室の閉鎖は、本来墓である墳丘を後世に残していくという発想で、生物被害を抑制する観点からもよい方法と考える。
- 古墳の石室前に管理施設を設けると、施設と墳丘部との間の取合部で土が崩れ雨水が入る可能性があるので、石室の前に人工的な施設を造るのは好ましくない。
- 石室内にはまだ床面に重要な漆喰が残っているので、現状保存するのであれば、石室を閉鎖すべき。

◆石室を閉鎖することを前提とした上で、見学者が現地に足を運ぶような工夫をすべきという意見

- キトラ古墳は高松塚古墳とは異なり、石室がまだ現地に残っているので、現地にも足を運んでいただけるような形の整備を検討してほしい。石室を閉鎖するのであれば、古墳の近くにレプリカの石室を展示すること等によって本物がイメージできる形を考えてはどうか。
- 石室の前の墓道はすでに掘られており、墳丘を全部復元したとしても、墓道の部分だけは何を埋めてもまた掘り出せる。外観に影響を与えない範囲でそこに入る程度の施設を設け、ファイバースコープ等を用いて資料館から石室の内部を覗くことも可能だと思う。

◆墳丘の管理対策、防水対策に関する意見

- マルコ山古墳の場合は検査口を作っているため、漆喰に関するデータについては、マルコ山古墳で調査を行えばよいのではないかと。
- 「水みち」等の影響を考慮した整備方法を考えてほしい。